

国際保健に関する今後の主な論点

第6回国際保健に関する 懇談会	資料3-2
平成28年10月6日(木)	

1. 公衆衛生危機に対するグローバル・ヘルス・アーキテクチャー

- ① 国連グローバル健康危機タスクフォース及びWHO独立監査諮問委員会への参画継続
- ② WHOと国連人道問題調整事務所(OCHA)による標準業務手順書(SOP)の策定及び国連総会での位置付けの検討
- ③ WHOの新しい健康危機プログラム及び緊急対応基金(CFE)の設立
- ④ 国際保健規則(IHR)コアキャパシティ合同外部評価への貢献の検討
- ⑤ 世界健康安全保障アジェンダ(GHSA)等を通じたIHRコアキャパシティ達成支援

2. ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)

- ① International Health Partnership for UHC2030への協力の検討
- ② 2017年目途でUHC国際会議(世界銀行、WHO共催)の日本開催を検討
- ③ WHOによるGlobal Healthy Ageing Initiativeへの支援
- ④ アクティブ・エイジングに関する国際協力の実施

3. 薬剤耐性(AMR)

- ① 国連総会ハイレベル会合のフォローアップ
- ② 薬剤耐性菌に関する、アジア・太平洋地域におけるリーダーシップ

4. 国際保健政策人材養成および派遣

- ① グローバルヘルス政策人材センターの検討
- ② 国際感染症対応人材育成の検討

5. その他

- ① ゲノム医療やがん研究での日米韓をはじめとする国際連携